

令和6年度  
宮崎県学校図書館教育研究大会  
県北大会研究紀要

大会主題

「豊かな心と学びを育む学校図書館」



期 日 令和6年8月8日(木)

会 場 延岡市カルチャープラザのべおか  
延岡市社会教育センター

宮崎県学校教育研究会図書館教育部会

# あいさつ

宮崎県学校教育研究会図書館教育部会  
会長 有田勝則

この度、県内各地より多くの皆様のご参加をいただき、令和6年度宮崎県学校図書館教育研究大会県北大会を開催できますことについて心より感謝を申し上げます。

さて、今後の学校図書館の活用の在り方につきましては、新学習指導要領総則の中で、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童・生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実する」ことがうたわれております。また、特別活動の学級活動の中で、一人一人のキャリア形成と自己実現のために「現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ること」と明記されており、自己実現を図る上でも図書館等を活用する重要性がうたわれています。

また、学校においては、このような図書館教育に期待されている役割が最大限に発揮できるようにすることが重要であり、学校図書館が児童・生徒にとって落ち着いた読書を行うことができる、安らぎのある環境や知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境として整えられるように努めることが大切であると考えられます。平成28年11月に文部科学省より出された「学校図書館ガイドライン」においても、「学校は、学習指導要領等を踏まえ、各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利用し、児童・生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努めることが望ましい。」とされ、校長のリーダーシップの下、学校図書館に関する全体計画に基づき、教職員が連携して、計画的・組織的に学校図書館の運営に当たっていくことが求められています。

そのような中、これまで本学校図書館部会では、学校図書館の役割の充実や各校における読書活動の推進に向け、県内各地区で、様々な研究や取組を行ってまいりました。今回の県北大会では、大会主題を「豊かな心と学びを育む学校図書館」として掲げ、6つの分科会を設定し、学校図書館の活用や各校における読書活動の推進、地域や関連機関との連携等の視点から各地区の発表とそれに伴う協議を行います。これらを通して、今後、県内各学校図書館の活用と児童生徒の読書活動の充実がさらに図られますことを心より願っております。

最後に、本大会の開催に当たり、準備や大会の運営にも携わっていただいている開催地区の関係者の皆様、忙しい中、研究を進めてくださった発表者の皆様に心より、お礼を申し上げます。加えて、これまでご指導・ご支援を賜りました宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、その他関係の皆様方に深く感謝を申し上げ、あいさつといたします。

# 令和6年度 宮崎県学校図書館教育研究大会県北大会

1 期 日 令和6年8月8日(木)

2 会 場 延岡市カルチャープラザのべおか(宮崎県延岡市本小路 39 番地 | 電話 0982-34-6549)  
延岡市社会教育センター (宮崎県延岡市本小路 39-1 電話 0982-22-7032)

3 主 催 宮崎県学校教育研究会図書館教育部会

4 後 援 宮崎県教育委員会 延岡市教育委員会 日向市教育委員会 五ヶ瀬町教育委員会  
門川町教育委員会 美郷町教育委員会 諸塚村教育委員会 日之影町教育委員会  
椎葉村教育委員会 高千穂町教育委員会

5 大会主題 「豊かな心と学びを育む学校図書館」

6 大会趣旨

学校図書館は、児童生徒の読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、学習活動を支援したり授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能を有している。また、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能も有している。さらに、学校図書館には変化する社会情勢を踏まえ、「児童生徒の心の居場所」、「家庭・地域における読書活動への支援」等の機能を果たすことも求められており、「教員の授業改善や資質の向上」の観点からの重要性も踏まえ、学校図書館が果たすべき役割は年々、多様化が進んでいるといえる。

現在、宮崎県は「読書県づくりの推進」を掲げ、行政、地域、図書館、学校、家庭等が連携を図りながら全県的な取組を行っている。

このような中、本研究大会では今後の学校図書館のあるべき姿、読書教育の在り方等について協議を深めることで本主題に迫っていきたいと考える。

7 日程

時間	13:00 ~13:30	13:30 ~13:50	14:05 ~ 16:05	16:05 ~16:15
分	(30)	(20)	(120)	(10)
内容	受付	開会行事	研究発表・研究協議 (休息を含む)	閉会行事
会場	延岡市カルチャー プラザのべおか	延岡市カルチャー プラザのべおか ハーモニーホール	延岡市社会教育センター	延岡市社会教育 センター

8 分科会 (14:05~16:05)

分科	協議題	発表者	司会者	記録者	指導助言者
第1分科会	A 魅力的な学校図書館づくり	加納小学校 教諭 本田妃佐喜	北方学園 教頭 金澤由紀子	北方学園 教諭 松本 沙織	県教育庁北部教育事務所 指導主事 大田川真志
		穂北中学校 教諭 中里美紀			
第2分科会	B 学習情報センターとしての学校図書館の活用	通山小学校 教諭 佐野志織	土々呂中学校 教頭 大石 彰	東小学校 教諭 村田 葵	県教育庁中部教育事務所 指導主事 有田 雅代
		永久津中学校 教諭 松下良子			
第3分科会	C 学校における読書指導	山之口小学校 教諭 梅元杏華	東小学校 教頭 上米良 剛	南方中学校 教諭 舟津 淳子	県教育庁南部教育事務所 指導主事 前田 雅樹
		西岳中学校 教諭 稲元 愛			
第4分科会	D 特別支援教育における読書活動	学校図書司書 多田明子	恒富小学校 教頭 武田啓宏	南中学校 教諭 中田 晃喜	県教育庁北部教育事務所 指導主事 緒方 宏文
		南郷中学校 教諭 外林義朗			
第5分科会	E 学校司書・司書教諭の役割	国富小学校 教諭 河野歩美	西小学校 教頭 島 和	黒岩小学校 教諭 木下奈緒子	県教育庁義務教育課 指導主事 川崎 優也
		広瀬中学校 教諭 有田桂子			
第6分科会	F 地域・家庭・公共図書館との連携	北川小学校 教諭 泉美麻里	東海東小学校 教頭 黒木正大	緑ヶ丘小学校 教諭 甲斐由利子	県教育研修センター 社会教育主事 楠本 将夫
		島野浦学園 教諭 甲斐聖佳			
		宮崎商業高校 教諭 厚地晃子			

【分科会の時間配分】

	進行 説明	発表1 (質疑含む)	発表2 (質疑含む)	発表3 (質疑含む)	休息	協議	指導 講評
第1~5 分科会	14:05~	14:10~	14:35~	/	15:00~	15:10~	15:55~
	14:10	14:35	15:00		15:10	15:55	16:05
第6 分科会	14:05~	14:10~	14:30~	14:50~	15:10~	15:20~	15:55~
	14:10	14:30	14:50	15:10	15:20	15:55	16:05

## 県北大会 発表者一覧

	研究項目・内容	発表者	ページ
第1分科会	「魅力的な学校図書館づくり」 ～各学校における読書指導の実践を通して～	宮崎市立加納小学校 (日向市立財光寺南小学校) 教諭 本田妃佐喜	5～6
	「魅力的な学校図書館づくり」 ～豊かな心と学びを育む学校図書館～	西都市立穂北中学校 教諭 中里 美紀	7～8
第2分科会	「学習情報センターとしての学校図書館の活用」 ～教科の学習内容を深めるための 学校図書館利用を通して～	川南町立通山小学校 教諭 佐野 志織	9～10
	「学習情報センターとしての学校図書館の活用」 ～学習情報センターとしての学校図書館の活用～	小林市立永久津中学校 教諭 松下 良子	11～12
第3分科会	「学校における読書指導」 ～学校における読書指導を通して～	都城市立山之口小学校 教諭 梅元 杏華	13～14
	「学校における読書指導」 ～1年間を見通した計画的な読書指導を通して～	都城市立西岳中学校 教諭 稲元 愛	15～16
第4分科会	「特別支援教育における読書活動」 ～競い合う読書から認め合い・学び合う読書へ～ Well-being 特別支援教育の視点で、 学校図書館の機能をONにする	(株) 共立ソリューションズ 学校図書司書 多田 明子	17～18
	「特別支援教育における読書活動」 ～特別支援教育の視点に立った読書指導の充実～	日南市立南郷中学校 (日南市立北郷小中学校) 教諭 外林 義朗	19～20
第5分科会	「学校司書・司書教諭の役割」 ～図書主任の役割と学校司書との連携の在り方～	宮崎市立国富小学校 教諭 河野 歩美	21～22
	「学校司書・司書教諭の役割」 ～図書主任の役割と読書活動アシスタント との連携の在り方～	宮崎市立広瀬中学校 教諭 有田 桂子	23～24
第6分科会	「豊かな心と学びを育む学校図書館」 ～地域・家庭・公共図書館との連携を通して～	延岡市立北川小学校 教諭 泉美 麻里	25～26
	「豊かな心と学びを育む学校図書館」 ～地域・家庭・公共図書館との連携を通して～	延岡市立島野浦学園 教諭 甲斐 聖佳	27～28
	「地域・家庭・公共図書館との連携」 ～「本」に関わるボランティアを通して～	宮崎県立宮崎商業高等学校 教諭 厚地 晃子	29～30

## 第1分科会「魅力的な学校図書館づくり」

～各学校における読書指導の実践を通して～

日向市立財光寺南小学校（宮崎市立加納小学校） 教諭 本田 妃佐喜

### 1 はじめに

日向市には、14の小学校と8校の中学校があり、その小中学校で図書主任会を構成している。取組や実践について情報交換し、「魅力ある学校図書館づくり」について研究を進めてきた。市内の小学校の全児童を対象に、5月と11月で読書への意識調査を行ったところ、読書の楽しさや大切さを感じる児童が多いことが分かった。一方で、利用頻度の個人差を改善することや蔵書の充実を図る必要性を感じた。

### 2 主題設定の理由

学校図書館は、児童生徒の興味・関心に応じて自発的・主体的に読書や学習を行う場、読書等を介して創造的な活動を行う場である。そのため、学校図書館は落ち着いて読書できる安らぎのある環境や、知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境を整えることが望ましい。また、学校図書館は教室での固定された人間関係から離れ、一人で過ごしたり様々な人々との関わりをもつことができたりする場である。児童が学校図書館を校内における「心の居場所」としていることも少なくない。そこで、「学校図書館に親しむ」ことが、「学びを支える」「心を支える」ことにつながると考えた。

### 3 研究目標

魅力ある学校図書館をつくっていくために、読書環境の整備や読書活動を推進することで、意図的に学校図書館の利用者を増やし、本や読書への興味・関心を高める。

### 4 研究の仮説

校内の教職員や司書、委員会児童と連携しながら、魅力的な学校図書館づくりに向けて様々な取組を行えば、学校図書館に来館する児童が増え、本や読書に興味をもち心のオアシス的な居場所として提供できるのではないかと考えた。

### 5 研究の実際

#### (1) 読書量を増やす取組

毎月の図書館イベントとして、毎月図書カウンター横に季節の本を提示したり、カウンター横の「わくわくコーナー」で毎月クイズや今月の催しを知らせたりした。

また、市立図書館「みんなでつなごう！ブックバトン」と連携させた取組では、学校図書館にブックバトン作成コーナーを設け取り組んだ。他には、「みんなに読んでほしい本」と題して、6年生のおすすめの本をPOPで紹介した。

#### (2) 経営の工夫

掲示の工夫では、学校図書館の入り口に、毎週の図書の貸出冊数を数字とともにグラフで表示した「読書メーター」の掲示や、季節を感じる掲示、「今月の言葉遊び」としていろいろな言葉や文章を掲示した。また、時期によって設定したテーマに関連した本を並べるコーナーを学校図書館内に設けた。

配架の工夫では、新刊、図書委員会によるおすすめの本、国語の教科書で紹介されている本等について紹介や設置を行った。

#### (3) 委員会活動での取組

学校図書館内には、年度初めに委員会児童で設定した1年間の目標貸出冊数を掲示

した。また、「図書委員会や職員による読み聞かせ」、「読書ビンゴゲーム」、「塗り絵コンテスト」、図書キャラクターの募集」等の図書委員会によるイベントの実施、運営を行った。

#### (4) 選書の工夫

児童が「読みたい」と思う本を一冊でも多く図書室に設置し、より児童の読書への意欲を向上させるために、児童の貸出傾向を基に選書を行った。また、選書会では、複数の本を実際に見比べながらより読みやすい本選びに努めた。

### 6 児童への意識調査

#### (1) 図書貸し出し冊数の調査結果

【5月】

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童生徒数(人)	402	417	453	460	472	488	2892
総貸出冊数(冊)	3797	2953	2435	2844	1751	3412	17192
平均貸出冊数(冊)	9.4	7.1	5.4	6.2	3.7	7.0	6.4
一冊も読まなかった児童数(人)	8	4	23	9	59	48	151
不読者率(%)	2.0	1.0	5.1	2.0	12.5	9.8	5.8

【11月】

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童生徒数(人)	400	427	446	459	458	483	2873
総貸出冊数(冊)	5939	4402	4842	5419	2428	2435	25465
平均貸出冊数(冊)	14.8	10.3	10.9	11.8	5.3	5.0	9.5
一冊も読まなかった児童生徒数(人)	0	2	4	7	4	14	31
不読者率(%)	0	0.5	0.9	1.5	0.9	2.9	1.2

#### (2) 読書に対する児童の意識調査の結果



#### (3) 図書貸出冊数調査及び読書に対する児童の意識調査の結果から分かること

5月と11月を比較すると、総貸出冊数が8273冊と、48%増加した。また、平均貸出冊数は一人6.4冊から9.5冊に増加した。そして、1ヶ月1冊も読まなかった児童は151人から31人に減少し、不読者率が5月から4.4%減少した。しかし、高学年に限定するとその人数は増加した。読書に対する意識調査では、中学年で「読書が好き」「どちらかというを読書が好き」という児童が増加した。

### 7 成果と課題

#### (1) 成果

- 新刊コーナーの本や図書委員おすすめの本等を提示することで、本に興味をもち学校図書館を利用する児童が増加した。
- 児童がどのような本に興味をもっているかを把握することで、選書に活かすことができた。
- 図書委員会の児童を中心に児童主体のイベントを実施することで、楽しく来館できる雰囲気をつくることができた。

#### (2) 課題

- 学校図書館の魅力的な環境整備をし、利用しない児童に働きかける必要がある。

### 8 おわりに

読書は心の栄養となり考える力の源となる。本との出会いや子どもたちの「本が好き」「もっといろいろな本を読みたい」という思いを大切にし、様々な実践を参考にしたり情報を収集したりしながら、より利用しやすい魅力ある学校図書館作りに努めていきたい。

## 第1分科会「魅力的な学校図書館づくり」

～豊かな心と学びを育む学校図書館～

西都市立穂北中学校 教諭 中里 美紀

### 1 はじめに

本校は、令和8年度に西都中学校に統合され閉校することが決定している。西都市内の銀鏡中学校以外の妻中学校、穂北中学校、都於郡中学校、三財中学校、三納中学校の5校が西都中学校になる予定である。西都市内の中学校では、情報を共有しながら、統合後の学校図書館の運営がスムーズにいくように、また現在の学校図書館の利用の促進も考えながら学校図書館の運営にあたっている状況である。さらに、三財中学校、三納中学校、銀鏡中学校については、小学校と同じ校舎になっており、図書委員会の活動も小学生と一緒にしたり、交替でしたりしている状況である。生徒数が少なく、活動できる生徒も限られている。こういう状況ではあるが、それぞれの学校の規模、状況に合わせて生徒たちにとって図書館が魅力的な場所となるように活動を進めている。

### 2 主題設定の理由

生徒の読書活動を充実させていくためには、学校図書館が生徒にとって魅力的な場所になるようにしていく必要がある。しかし、学校図書館のスペースは限られており、図書の充実を図りながらも、同時に廃棄も進めていかなければならない。令和8年度に現在の妻中学校の校舎で西都中学校がスタートするのであれば、各学校の蔵書を全て運び込むことは不可能であるため、さらに廃棄を進める必要がある。そこで、効率的に廃棄を進め、厳選された蔵書の中で、生徒たちが学校図書館を魅力的な場所と感じ、豊かな心と学びを育む場所となれるよう本主題を設定した。

### 3 研究目標

学校図書館の蔵書を整理し、生徒にとって魅力的な場所にすることで、学校図書館の利用者を増やし、生徒の豊かな心と学びを育む。

### 4 研究の仮説

学校図書館にある蔵書を整理し、廃棄することでスペースが生まれ、配置、掲示等を工夫することで、学校図書館が生徒にとって魅力的な場所になるだろう。

### 5 研究の実際

#### (1) 蔵書の整理

西都市内の中学校は全校、統合後の中学校に蔵書に移すことができないことや、書庫にかなり古い本があり、新しい本を置くスペースがなくなっているため、古い本の廃棄を大々的にする必要があった。夏休み中の職員作業として廃棄する本の選定を行った。廃棄することで書庫に余裕が生まれ、新刊コーナーを作るなど、手に取りやすい位置や置き方を工夫することができた。





(2) 配置の工夫

どこにどういった本があるのかが分かりやすいように、本棚の上部に番号やジャンルを掲示したり、作家ごとに本をまとめて区切ったりなどの取組を行っている。



(3) 掲示の工夫

ア 学校図書館入り口の掲示

図書館の窓や図書館の出入り口などに、季節感のある飾りつけや新刊本のお知らせなどのPOPを掲示し、生徒が図書館に入りたくするような雰囲気を作っている。また、出入り口に本年度の貸し出し冊数と、貸し出しの目標冊数を掲示した。貸し出しの目標冊数を意識することで図書館利用者が増えると考えている。



イ おすすめの本のコーナー

国語の教科書に出てくる本を集めたコーナーやおすすめの本のコーナー（季節や行事などに関する本）、新刊本のコーナーなど、生徒がいろいろな図書に興味をもつようなコーナーを作っている。



(4) 読み聞かせの実施

さらに魅力的な場所づくりとして、昼休みの図書館で図書委員会よる読み聞かせを実施した。小中一貫校では、小学生が興味をもちそうな本を中学生が選び実施した。小学生は、中学生がどんな本を読んでもくれるかを楽しみにし、中学生は、たくさんの本の中から小学生が喜びそうな本を選ぶことで、さまざまな本に触れる機会になっている。

6 成果と課題

古い本も多くスペースが足りなくなっている状態であったが、中学校の統合というきっかけもあり、今回大規模な廃棄を行うことで、学校図書館が広く明るい場所になり読書に親しむための場所をつくることができた。

(1) 成果

- 古い本を廃棄することで、新しい本を手にする生徒が増えた。
- 図書館出入り口の掲示を工夫することで、今まで図書館に入ったことのない生徒の来室のきっかけになった。

(2) 課題

- 西都市は小規模校が多く、図書委員会の活動を活発にしようとしても限界がある。地道な取組を継続していくことに注力したい。
- 閉校後の蔵書の移管のこともあり、廃棄についてもっと進めていく必要がある。

7 おわりに

今回の研究を通して、図書の廃棄についての情報交換や図書の購入についての情報共有を行うことができた。今後も図書主任が連絡を取り合い中学校の統合に向けて協力していくことが大切であると感じた。